島根県水産技術センター　漁況情報　平成 20 年 10 月 28 日発行

トビウオ通信　（H20　第 11 号）

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/　　(TEL 0855-22-1720)

《平成 20 年度下半期浮魚中長期漁況予報》

平成 20 年 10 月に長崎市において開催された東シナ海～日本海西南海域にかけての対馬暖流域における主要浮魚類の長期漁況予報会議の内容を基に、山陰沖のまき網漁業が対象とする主要浮魚の平成 20 年度下半期（10～3 月）の中・長期的な漁模様の予測をします。

山陰沖における漁況（来遊）予報〔平成 20 年度下半期（10～3 月）〕

マアジ：前年・平年を上回る　　マサバ：前年・平年を上回る
マイワシ：前年並みで、平年を上回る
カタクチイワシ：前年を下回り、平年を上回る
ウルメイワシ：前年を下回り、平年を上回る

※「平年」：過去 5 ヵ年（平成 15～19 年の 10～3 月）の平均値、「前年」：平成 19 年 10 月～3 月

マアジは前年・平年を上回る

東シナ海～日本海南西海域の漁況と今後　東シナ海～日本海南西海域における大中型まき網によるマアジのここ数年の漁獲量は減少傾向にありましたが、平成 20 年は 9 月までで前年を上回って経過しており、11～3 月期も前年を上回るとみられています。

一方、同海域の沿岸域における平成 20 年 4～8 月期の漁獲状況は、前年・平年を上回っており、今後は前年・平年並みと推定されています。

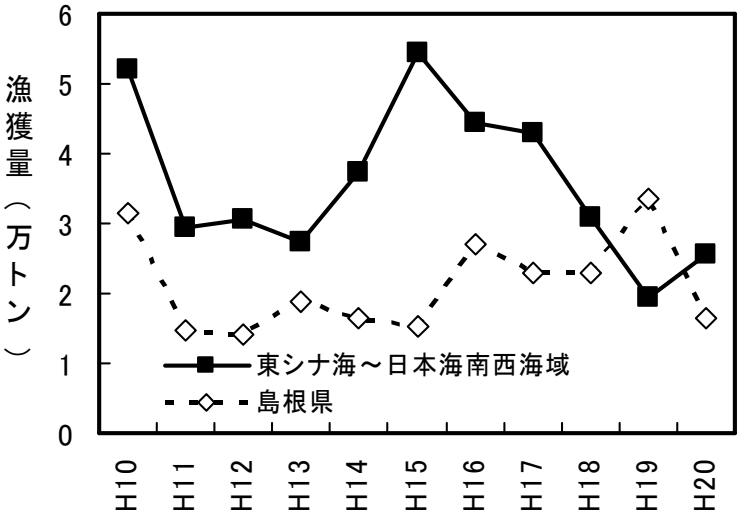

図 1. 東シナ海～日本海南西海域（大中型まき網）および島根県（中型まき網）のマアジ漁獲量の推移
※H20 は 9 月までの集計値

山陰沖の漁況と今後　島根県の中型まき網によるマアジの漁獲量は増減しながら推移しており、平成 20 年 9 月までのマアジの漁獲量は約 1 万 6 千トンで、前年同期の 6 割、平年同期の 9 割となっています（図 1）。

例年、10～3 月期は 0 歳魚と 1 歳魚が漁獲の主体で、2 歳魚以上も漁獲されます。毎

年、島根県、鳥取県および日本海区水産研究所が行っているマアジ新規加入量調査※（マアジ0歳魚の山陰沖への来遊量を調べる調査）の結果をみると、来遊量の多寡を表す加入量指数は高く、これを裏付けるように6月以降、マアジ0歳魚（H20年生まれ）が前年より多く漁獲されています（浜田漁港の中型まき網水揚げ分で前年の3.4倍）。よって、0歳魚（H20年生まれ）の資源水準は前年を上回り、1歳魚（H19年生まれ）と2歳魚（H18年生まれ）は同程度の資源水準でそれぞれ前年並みであるため、10～3月期の漁況は、前年（約1万トン）・平年（約1万2千トン）を上回ると推定されます。

※マアジ新規加入量調査の詳細については「トビウオ通信H20年第6号」をご覧ください。

マサバは前年・平年を上回る

東シナ海～日本海南西海域における大中型まき網によるマサバの漁獲量は、近年は低位横這いで、資源水準は依然として低い状態にあります（図2）。平成20年の9月までの漁獲量は約2万トンでした。

島根県の中型まき網によるマサバの漁獲量は平成17年以降増加傾向でしたが、平成20年は9月までは前年・平年を下回る漁獲量（前年の1割、平年の3割）で低調に経過しています（図2）。例年、9月以降は0歳魚と1歳魚が漁獲の主体になると考えられ、0歳魚（2008年生まれ）の資源水準は1歳魚（2007年生まれ）並みかそれ以上とされています。よって、10～3月期の漁況は冷水域の張り出し具合によりますが、前年（約5千トン）・平年（約7千トン）を上回ると推定されます。

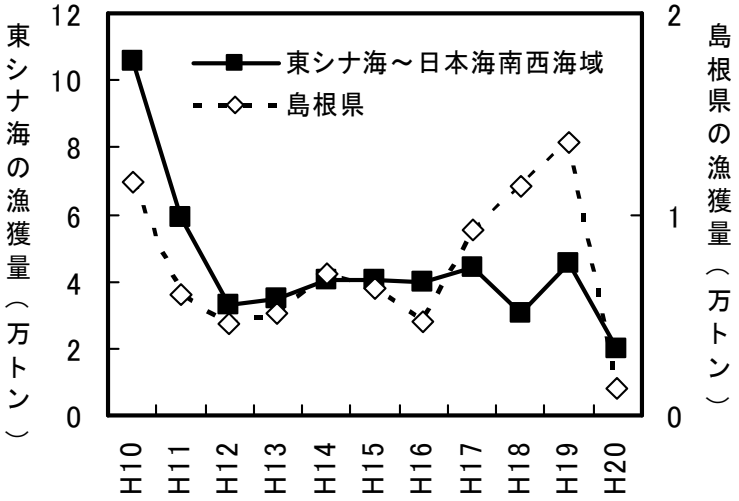

図2. 東シナ海～日本海南西海域（大中型まき網）および島根県（中型まき網）のマサバ漁獲量の推移
※H20は9月までの集計値

マイワシは前年並みで、平年を上回る

島根県の中型まき網によるマイワシの漁獲量は平成15年以降やや回復傾向にあり、平成20年は3～5月に1歳～2歳魚を主体にまとまって漁獲され、9月までの漁獲量は約4千トンで、前年同期の3倍、平年同期の5倍となっています（図3）。

2008年のマイワシ魚群量は前年と同程度とされており、また、漁場は長崎県以北の沿岸域が中心になると考えられていることから、10～3月期の来遊量は前年並みで平年を上回ると推定されます。ただし、資源水準は依然として極めて低いため、以前のような豊漁につながる来遊は当分先だと思われます。

カタクチイワシは前年を下回り、平年を上回る

島根県の中型まき網によるカタクチイワシの漁獲量は、平成13年以降増減しながら

低調に推移しています。平成 20 年は 3～5 月に 1 歳魚を主体にまとまって漁獲され、9 月までの漁獲量は約 1 万 4 千トンと、前年同期の約 1.4 倍、平年同期の 1.8 倍となりました（図 3）。カタクチイワシは平成 17 年以降春期発生群の加入は近年では高い水準にあるとされており、H18 年春生まれ群も前年よりやや下回るものの、資源水準は高いとされています。よって、10～3 月期の漁況は、好漁であった前年（約 1 万トン）を下回るものの、平年（約 4 千トン）は上回ると推定されます。

ウルメイワシは前年を下回り、平年を上回る

島根県の中型まき網によるウルメイワシの漁獲量は、平成 14 年以降やや増加傾向にあり、平成 20 年は 3～5 月に 1 歳魚を主体にまとまって漁獲され、9 月までの漁獲量は約 2,500 トンと前年同期の 1.5 倍、平年同期並みで経過しています（図 3）。平成 19 年生まれ群の加入量は近年では高い水準であり、平成 20 年生まれ群はそれと同程度か下回ると推測されています。これらのことから 10～3 月期の漁況は、漁場が形成される時期にもよりますが、好漁であった前年（約 5 千トン）は下回るものの平年（約 2 千トン）は上回ると推定されます。

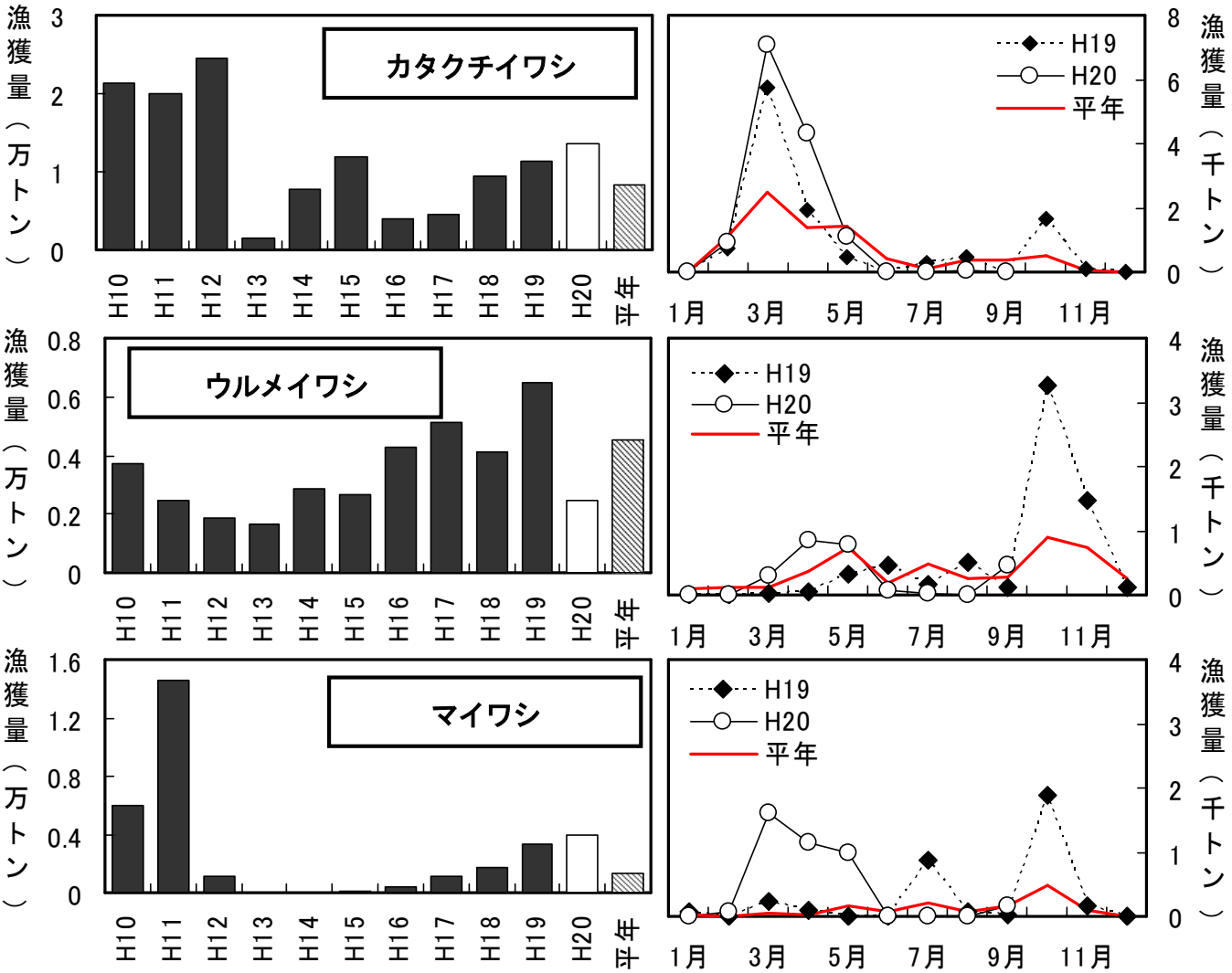

図 3.　島根県中型まき網によるイワシ類の漁獲量推移（左：年別、右：月別）
上段：カタクチイワシ、中段：ウルメイワシ、下段：マイワシ
※H20 年は 9 月までの集計値